

ズバリ町政を問う

一般質問

一般質問は、議員が執行機関に対して、町政全般にわたる執行状況や将来に対する方針などの諸問題について質問を行い、町の姿勢を明らかにするものです。12月会議では議員12人による一般質問が行われ、活発な議論が展開されました。掲載の質疑内容は、質問した議員の原稿によるものです。

●昆 秀一 議員……………P5

- ①精神保健施策の推進
- ②性に関する教育および支援体制等
- ③芸術文化振興策の推進

●村 松 信一 議員……………P6

- ①令和7年度教育行政方針について
- ②第8次総合計画の町の将来像の実現に向けた4つのまちづくりについて
- ③令和7年度施政方針における事務事業の進捗状況について

●小笠原 佳子 議員……………P7

- ①GIGAスクール端末の更新と環福連携について
- ②認知症早期発見ツール、オレンジチェックシートについて
- ③クマの被害について

●横澤 駿一 議員……………P8

- ①誰も取り残さない「居場所づくり」と、その人らしさを尊重するまちづくりに向けて
- ②中長期的な視点でのクマ出没対策について

●谷 上 知子 議員……………P9

- ①南昌みらい高校新体育館建設の経過と今後について
- ②「森林と小動物と仲間づくり」の活動で青少年との交流を作り出すことについて
- ③高齢者の社会参加が認知症対策になることについて

●高橋 恵 議員……………P10

- ①環境美化条例の必要性について
- ②クマの出没と対策強化について
- ③農家支援と防除対策

●水本 淳一 議員……………P11

- ①町の介護福祉の現状と支援策について
- ②町の農地管理の現状と支援策について

●高橋 安子 議員……………P12

- ①矢幅駅舎東口の利活用について
- ②小中学校不登校および教師の休職について
- ③矢巾町国民保養センターの料金設定について

●齊藤 勝浩 議員……………P13

- ①内部統制の導入について
- ②「未来カルテ」から考える矢巾町の未来予想図について

●赤丸 秀雄 議員……………P14

- ①小中学校児童生徒の不登校およびいじめ事象の現状について
- ②クマ対策と町民への注意喚起について
- ③町内公共交通運用の利便性改善について

●小川 文子 議員……………P15

- ①介護事業を進めるために
- ②町内養豚事業者の事業休止について

●高橋 敬太 議員……………P16

- ①主体的にまちづくりに関わる能動的な人財育成において大切なことは
- ②行政評価および証拠に基づく政策立案に対する考えは

町政を問う

一般質問通告書は、矢巾町議会ホームページに掲載しています。





こん しゅういち
昆秀一議員
(新誠会)

動画は
こちら▶



子どもを守り育む性教育充実を 性に関する教育と支援 相談体制を充実

質問 性に関する教育と支援は、人が自分らしく生きるための基礎となる重要なテーマ

教育長 学校では発達段階に応じた指導を行い、外部講師による専門的な学習も実施し、相談窓口の整備、保護者支援など、性教育と支援体制のあり方を問う。

教育長 補助制度の活用や学校との連携を図りつつ、鑑賞体験やワークショップなどを活用も進め、「文化を身近に感じられる環境づくり」を推進していく。

精神保健施策のさらなる強化を 心の健康を支える体制を強化

る。

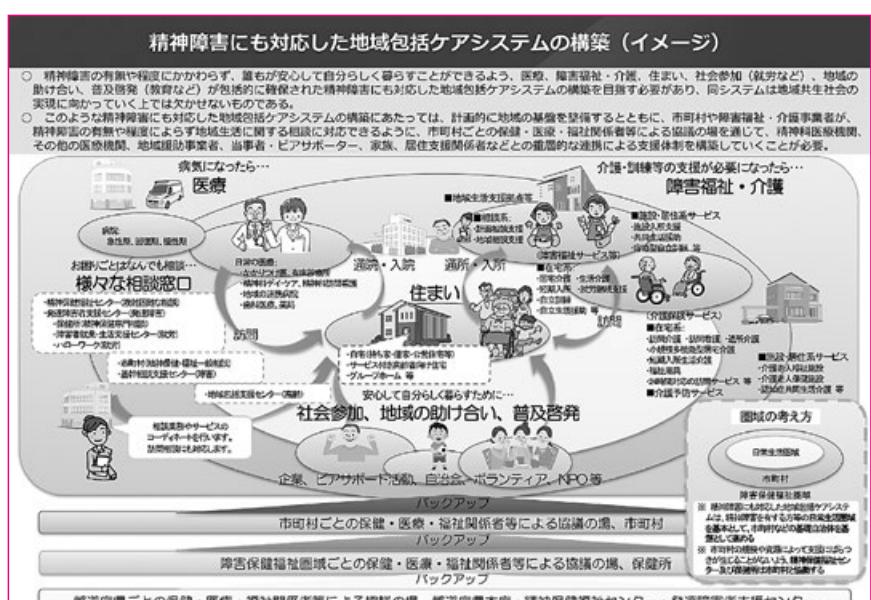
町長 相談内容によって専門的な精神保健としての支援が必要な場合、関係機関が連携し早期対応に努めている。

また、心のサポート・センター養成講座やゲートキーパー養成講座などの支援者研修や啓発活動も継続している。

今後も「相談しやすい環境づくり」を進め、町民の心の健康を支える体制を強化する。

質問 誰もが心の不調を抱える可能性がある現代社会。精神保健に関する課題は見えにくく、声にならない声が埋もれがちである。

相談窓口の連携、支援者養成、家族支援の充実、偏見解消の取り組みなど多々ある支援を強化する必要があると感じじるが、町の見解は。



厚生労働省ホームページより

文化の力を未来につなぐには 文化が身近に感じる環境をつくる

質問

芸術文化は、人々の心に潤いと誇りをもたらし、地域の魅力を高め、世代を超えて人と人とをつなぐ力がある。

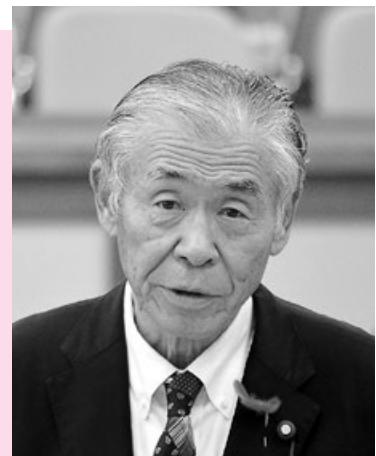
文化団体支援、担い手不足、子どもの文化体験、文化による地域活性化、施設活用など、多面的な視点から町の文化政策を問う。

また、相談体制や保護者向け講座も整備されている。今後も子どもと家庭を支える取り組みを充実させていく方針である。

ている。

コミュニティスクールの状況は

5者連携で教育課題を「熟議」



むらまつ のぶかつ
村松 信一 議員
(矢巾未来の会)

動画は
こちら▶



キャリア教育の実績は。

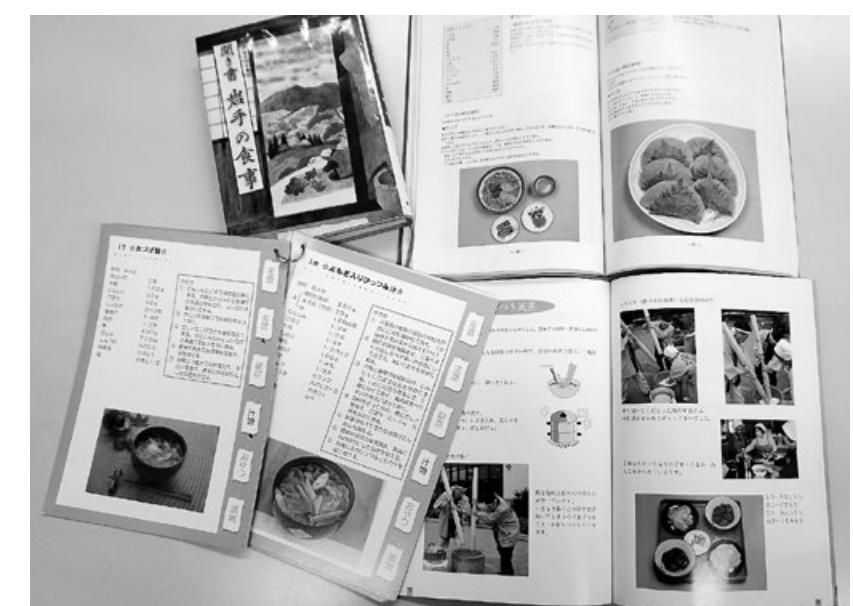
教育長 社会で働く意義や将来なりたい職業について理解を深めるため、町内事業所などにおいて職場体験学習を実施している。

質問 発達障がいや不登校に対する適応支援・特別支援の状況は。

教育長 適応支援員7名、特別支援教育支援員10名を配置し、きめ細かな指導・支援に努めている。

まちの将来像は

4つのまちづくり
を目指して推進



6次産業の可能性を秘めた矢巾町の昭和の料理冊子

質問 9年間を通じて行う、
教育長 早起き・朝ごはんに
より、規則正しい生活リズム
の指導を実施。栄養教諭が訪
問し、指導を強化している。

質問 各学校に配置した大型
デイスプレイの活用方法は。
教育長 I C T活用能力を高
める相談員による指導を強化
し、活用推進を図る。

質問 より良い食習慣・生活
習慣の取り組みは。
教育長 本町では昭和時代の食
べ物をまとめた郷土誌がある
が、特産品開発のヒントにな
ると思われる。参考にしては
どうか。

質問 本町でしか手に入らない
もの・体験できないものは。
町長 郷土食として発刊され
ており、今後の参考としたい。
質問 労働者協同組合の実現
に向けた取り組みは。
町長 設立に関して町に協議
などがあった場合は、前向き
に取り組む。

質問 本町でしか手に入らない
ものと捉え
ている。



おがさわらよしこ
小笠原 佳子 議員
(公明党)

動画は
こちら▶



GIGAスクール端末の更新は 令和8年度にリースで更新

質問 児童生徒1人1台端末は2020年度に導入され、耐用年数やWindows 10サポート終了に伴い更新が必要であるが、時期と台数は。また、共同調達の見通しや処分委託、データ消去の安全性についてどうお考えか。

教育長 令和8年度に、児童生徒用2,356台、教員用200台をリースで更新予定。共同調達は、複数事業者による参加が可能で支障はないと考える。

情報漏洩事例は遺憾であり、適正処理が可能な事業者を吟味し委託する予定。環境省通知に基づき、町民環境課と連携し認定事業者へ委託する方針である。

要であるが、時期と台数は。また、共同調達の見通しや処分委託、データ消去の安全性についてどうお考えか。

教育長 令和8年度に、児童生徒用2,356台、教員用200台をリースで更新予定。共同調達は、複数事業者による参加が可能で支障はないと考える。

質問 認知症の早期発見は重要であり、明石市の事例を参考に当町での事業や導入の可能性、血液検査による早期診断研究について伺う。

町長 機能評価や*認知症コホート研究に参加し軽度認知障害の検査を実施している。チエックシートの導入は、今後検討していく。

血液検査による診断は、研究段階であるが岩手医科大学などと連携し、国の施策を注視しながら進めていく。

質問 再資源化に際して、環境・福祉との連携や障がい者施設との協働の考えは。社会福祉法人新生会では資源ごみ分別実証事業を進めている。再資源化を障がい者就労支援と連携することについては今後検討する。

町長 県内には6事業者があり、社会福祉法人新生会では資源ごみ分別実証事業を進めている。再資源化を障がい者就労支援と連携することについては今後検討する。

認知症の 早期発見は

チエックシートの導入を検討

クマ被害対策 町の対応は

出没時の対応はマニュアルを整備

質問 出没増加に伴う農作物被害や猟友会への補助金、ハンター補償、後継者育成など、町の対応について伺う。

町長 農作物被害はリンゴなど

に及ぶ。猟友会には年額35万円を支出し、狩猟活動は保険で補償されている。隊員の平均年齢は63歳で、令和4年度以降は5名の新規狩猟者を確保。

町ではクマの出没時対応マニュアルを整備。政府の対策パッケージや交付金を活用し、町民の安全確保に努める。

クマ被害対策を！



人とクマがともに生きる道を

子どもホスピス設置に向けて

さまざまな場で発信を行う



よこさわ しゅんいち
横澤駿一議員
(不來方)

質問 公益性の高い支援拠点

質問 岩手県内で「子どもホスピス」の立ち上げに取り組む団体がある。本町には医療資源が集中し、北東北から医療を求めて来町する子ども・家族もいる。病氣があつても「その子らしく生きられる時間」を地域と共に「演出」していくことが、本町にできる大きな役割だと考えるが、ホスピス設置の可能性について、町の見解を伺う。

町長 町立として設置の予定はないが、町内に設置の際は、重い病氣があつたとしても子どもたちが遊びや学びなどの体験ができるよう、「子どもホスピス」を利用する親子と、地域の子どもたちとの、交流機会の確保を検討していく。



日本初のコミュニティ型子どもホスピス
「TSURUMIこどもホスピス」(大阪市鶴見区)

(例:ファミリーhaus、子どもホスピス、子ども第三の居場所など)を構想する際、遊休町有地などの公共資産を活用すべきと思うがどうか。

町長 現在、予定はないが、新たな支援拠点の整備にあたり、その機能を最大限に發揮するためには、既存の町立施設の活用および連携が必要と考えている。

質問 誰も取り残さない居場所づくりに向けて「人がつながる土壤」を耕す必要があると考える。

町として、支援をつなぐ人

ハート(心)の官民連携を支援チームづくりを目標にする

材の配置や、官民問わず、多様な主体が出会い、協働できる場づくり「ハートの官民連携」が重要ではないか。

町長 まずは、中間支援を担う団体や多様な取り組みを行っている地域活動団体、岩手医科大学の学生、地域課題の解決に取り組んでいる団体などとの意見交換を行いながら、最終的にはチームのような体制づくりを目指したい。

中長期的なクマ出没対策を緩衝地帯整備にかかる支援を要望

質問 短期的には捕獲が重要だが、中長期的には、里山も含めた、緩衝地帯の整備などの対策も必要では。

町長 里山の荒廃も出没の要因のひとつ。多面的機能支払交付金の活用を支援し、地域と連携し緩衝地帯の整備や獲体制の強化に取り組む。



谷上 知子 議員
(矢巾未来の会)

動画は
こちら▶



教育長 森林空間に入ると多
様な緑色、鳥の声や沢水の流
れ、空気のよいしさ、時間の生
流れや穏やかさなど人間の生

質問 動物とのふれあいや自
然体験が自己肯定感を育むこ
とへの認識は。

森林と小動物と 仲間づくり

優れた提案である
質問 森林活動で得られる癒
し効果は。
教育長 森林空間に入ると多
様な緑色、鳥の声や沢水の流
れ、空気のよいしさ、時間の生
流れや穏やかさなど人間の生

地域の居場所事業 を支援 社会参加で 認知症対策を

質問 社会活動に参加できる
ための高齢者への支援は。
町長 社会参加は孤独感の緩
和や生きがいの創出につなが
るために、地域の支援者などと
連携し、社会参加ができるよ
うに訪問や声掛けなどを継続
していく。



認知症サポーター養成講座 (高田1区)

質問 共創プロジェクトの現
状認識を伺う。

町長 共創プロジェクト検討
委員会を開催し、覚書を締結
した。詳細事項は後日協議し
定めることと規定していた。

共創プロジェクトは県教育
委員会と矢巾町が屋内運動場
を共創で整備し、教育施設と
町民の運動施設として、双方
の利活用を想定していたもの。
具体的な手手続きの協議が
ないまま現在に至っている。

教育長 小動物とふれあうこと
は、自分より弱いものや小さ
いものを守ることで自分が
いないと安心安全は保てない
と言う意識を強く持ち、自己
肯定感を育むことができる。

自然体験時の、草花や生態
系の全体システムを理解する
ときも同様で、自分以外のもの
へのやさしさや暖かさ、思
いやり、第三者的な視点や客
観性の認識を獲得できると考
える。青少年の健全育成には
重要で有用な方法である。

クマ出没把握と対応強化は

即時把握し迅速に対応



たかはし めぐみ
高橋 恵 議員
(町民の会)

動画は
こちら▶



質問 クマの出没件数や被害状況の把握方法、対応体制強化、隣接自治体や県との連携について、今後の方針は。

町長 クマの出没情報は通報や職員確認で把握、地図化して箱罠設置や事前対策に活用。市町境情報は盛岡市や紫波町と共有し、県の助言を得て対策を進めている。

質問 管理人不明の放任果樹（柿など）がクマ誘因の一つとなっているが、伐採や管理を進める対策を講じる考えは。

町長 放任果樹は所有者の責任で管理すべきであり、クマの餌場だからといって伐採を考えていない。今後も所有者の特定と適切な管理を促し、餌場対策を検討する。

質問 クマの出没件数や被害状況の把握方法、対応体制強化、隣接自治体や県との連携について、今後の方針は。

町長 これまで光や音、にんにくの刺激臭を使った対策を行ったが効果が続かないため、今後は緩衝帯の整備を進め、移動式簡易電気柵の設置を検討している。

環境美化条例の必要性は現時点での条例制定は考えていない



道路脇に散乱するごみ対策の強化が必要

アメリカシロヒトリの果樹被害

病害虫防除で
トリの果樹被害
ほぼ被害なし

質問 アメリカシロヒトリによる果樹や街路樹への被害に

対し、果樹農家や自治会への経済的支援は。

町長 果樹農家には収入保険制度への加入支援を行っている。街路樹の被害については、パトロールや自治会からの連絡で、専門業者による薬剤散布や剪定を実施している。



みずもと じゅんいち
水本淳一議員
(町民の会)

動画は
こちら▶



雑草だらけの空き地の管理は 状況を所有者に情報提供

質問 農業エリアの空き家・空き地に雑草や雑木が生い茂るなど、手入れの届かない土地が見られる。誰が草刈りを。

町長 町による管理はできないため、周辺環境への影響に関する相談があつた場合には職員が現地の状況を確認のうえ、所有者に情報提供を行っている。

質問 河川の害虫防除は、管理者側が農業用ドローンを活用した効率的な実施を。

町長 次年度事業として、ドローン用薬剤にも対応できるよう計画している。



高齢者などが地域で安心して暮らせるよう
医療・介護・福祉・保育など15事業を展開

質問 事前に河川などの管理者と協議のうえ対応していく。

町長 事前に河川などの管理

質問 町外に所有する農地を基盤整備事業の対象にする場合の申請方法は。

町長 農地所在の自治体に申請するほか、町内の農地を含め一体で本町に申請することも可能。また、令和7年度より農業担い手応援事業に耕作条件改善枠を設けている。

介護福祉の現状 と支援策は

質問 増加する介護の負担軽減に努める

質問 本町の要介護(要支援)認定者数は。

町長 令和7年度9月末時点

で前年同月より1・8%増え、1,309名となっている。

質問 本町の老々介護、超老々介護の実態は。

町長 具体的数値の把握はな

質問 障がいのある子を持つ保護者の最大の悩みに関し、現状の把握と支援策は。

町長 「親なき後にどうなるのか」が最大の心配事。今後、成年後見制度などについてわかりやすい情報発信を心掛け、啓発に努める。

質問 高齢者の所持する医療保険、介護保険に係る証書の種類が多く、その家族にとても管理が大変である。

質問 手続き方法や証書類の一元化など、簡略化できないか。

町長 マイナ保険証の利用により、限度額認定の事前申請や医療機関での提示が必要になるなど、手続きが簡素化された。

また、介護保険被保険者証のマイナンバーカードによる資格確認なども検討中。

矢幅駅舎東口の有効利用を

明るく活気のある玄関口に



たかはし やすこ
高橋 安子 議員
(町民の会)

動画は
こちら▶



ジショップなど貸しスペース
としても考えたい。

質問 本町の玄関口でもある矢幅駅東口には、令和5年3月に案内所やイベント情報、特産品の販売などの機能を備えた店舗が「情報発信ステーション」としてオープンしたが、管理していたカダルが本年3月に撤退し、案内業務だけの活気のない店舗となつた。またハバターカーも無く、暗く寂しい場所となつてている。

来春は、岩手医科大学病院メディカルセンターも本町に移転し、矢幅駅を利用される人口が多くなると予想される今、玄関口が暗く寂しい状況により機能を果たしていないと思うが、ハバターカーを含めての計画はあるか。

町長 現時点では、物販販売業者の参入は無いが、ハバターカー活用の検討と併せチャレン



利用人口増が見込まれる矢幅駅舎の有効利用を

質問 本町の就労支援施設では野菜やクッキーなどを製造販売している。その販売や地元団体などに呼びかけて、弁当などを日替わりで販売するなど、常に人が集まる賑わいのある場所にしてはどうか。また本町は「音楽のまち」であり、全国的に活躍する小

不登校および教師の休職状況は

町長 交流人口がますます増加するなか、まちの玄関口が暗いのは悲しいことだと思う。今の意見を含めて、できるだけ早く職員一丸となつて対策を考え、検討したい。

中高校生の演奏を、待合室を含めてモニターで上映しては。

いわてやはば議会だより235号 12
令和8年1月23日発行

小・中合わせ383名 教師は383名

質問 全国的に不登校の小中高校生が増加しているが、本町ではどうか。

教育長 令和6年度で、小中合わせて83名の不登校があり、全国と同じ傾向。原因は、生活や人間関係のストレスと思われる。

質問 教員の長期休暇は3名で、学級運営や保護者対応などの悩みによる。

質問 児童生徒は、状況に応じてカウンセリングを実施。教師は、業務分担の見直しなどで負担を軽減している。

質問 令和2年にコミュニティスクールを立ち上げたが、今こそ地域一体で取り組むべきでは。

教育長 学校の地域化、地域の学校化を目指し、保護者や地域で子どもたちや学校を指導していきたい。



さいとう かつひる
齊藤 勝浩 議員
(矢巾未来の会)

動画は
こちら▶



質問 盛岡南道路の整備確定は、更なる広域圏のアクセス向上による交流人口増が期待される。重点的取り組みは。

町長 盛岡南道路は岩手医大

各教育機関連携で
教育環境の研究を

**若者に選ばれる
まちづくり**

質問 親が安全・安心な子育てを行うため、ライフスタイルに応じた支援を行っている。子育て環境の充実についても研究を進める。

内部統制導入への取り組みは導入検討前に意識の醸成を図る

質問 監査委員からの令和6年度決算審査結果では、事務執行の不適切事項の報告があつた。

質問 指摘内容と対処方法は。

町長 補助金の支出手続き不備など数事の指摘を受けた。職員間の情報共有を徹底し、指摘に対する措置を講ずることで適切な執行に努める。

質問 業務運営では、車検切れ公用車運行、農業委員会での不適切事務処理があつた。

町長 業務リスクの洗い出しと改善策、今後の運用方針は。共通スケジュール利用や使用時の掲示方法の改善策を用いて対応。

また、職員間の相互確認体制強化を図り、法令順守の徹底を指示した。

質問 内部統制は、住民福祉の増進を図る目的達成のため、自治体が組織を健全に運用し業務を効率的に遂行するための仕組みだ。町は制度導入努力義務の自治体ではあるものの、近年の不祥事発生による町民からの不信感は否めない。

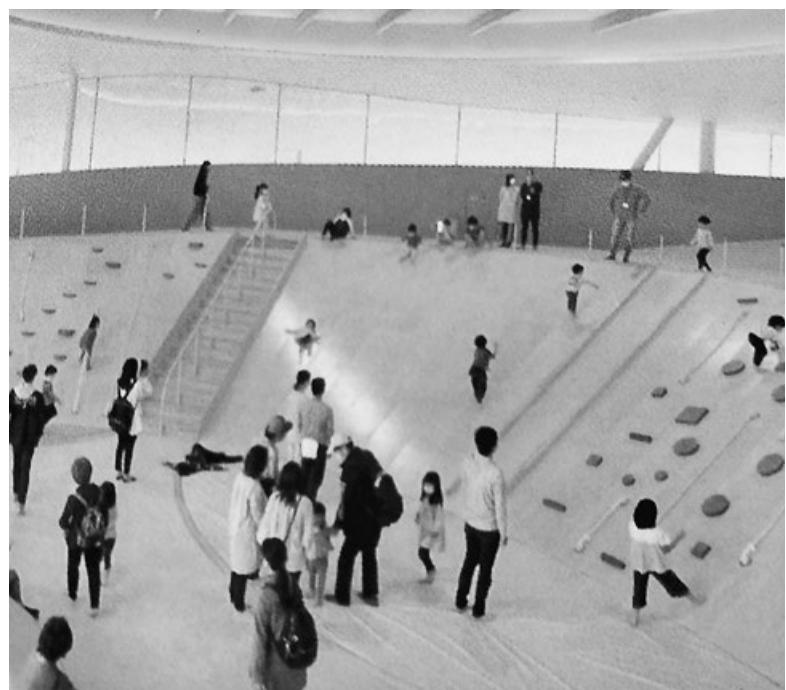
質問 リスク管理やガバナンス強化を図り、町民の信頼を確保するためにも、内部統制導入が必要と考えるがどうか。

町長 他の自治体において内部統制を執り進めていても、不正や指摘事項が減少しているわけではないようである。まずは職員の意識を律し職務にあたらせる。

未来カルテ
を基に
対策を

質問 *地域課題ダッシュボードβ版を分析

の命の道としての役割を担い、町全体への活力向上、経済波及効果は大きな要素と考えている。



子どもがのびのび遊べる遊戯施設を
(山形市南部児童遊戯施設「シェルターコパル」)

未来カルテ…大学教授などの研究プロジェクト（オポッサム）の未来予想成果物。
地域課題ダッシュボードβ版…内閣官房発の地方創生地域課題指標。

不登校生の相談体制強化を

きめ細やかな対応に努める



あかもる ひで お
赤丸 秀雄 議員
(新誠会)

動画は
こちら▶



不登校要因は

原因は多岐に渡る

質問 不登校要因の把握と相談体制の強化が必要と考えるが、どのような対応を行っているか。

また、私は家庭と学校でのコミュニケーション不足が第一義と考え、相談員の増加を望むがどうか。

当町も3年連続で増加傾向である。昨年度は小学校で32名、中学校は51名であった。

教育長 文部科学省から24年度不登校生の数が発表され、12年連続増加となる。県内は5年連続増加であったが当町の状況はどうか。

当町も3年連続で増加傾向である。昨年度は小学校で32名、中学校は51名であった。

教育長

不登校要因として小学校では「学校生活にやる気が出ない」中学生は「不安・抑うつ」となっているが、原因を一つに特定することは困難で多岐に渡ると踏まえる。

相談体制は町内のカウンセラーを必要に応じて弾力運用し、県にも依頼して相談支援強化を図っている。



児童・生徒がなごやかに
上級生も下級生も一緒になって活動する学校をいつまでも

クマ出没時の連絡体制強化を

早期周知に努める

質問 クマ出没時の町民への周知が遅いと言われている。早期に連絡が取れる体制への改善を望むが。

出没初期時の反省を踏

質問 クマ捕獲、その措置など多大な労力を費やすと言わされている。

1回の出動手当が安すぎることは、県内のみならず国内で話題となっているが、どう考えられるか。

町長 町や郡の獣友会の環境、県市町村の状況を踏まえ、適切な対応に努めたい。

まえ連絡体制を見直した。また、クマ出没対策のマニュアルを策定したことから、今後は町民の方々が安心できる情報提供ができると踏まえている。

乗り合い型バス運行改善を

利便性向上を検討

質問 昨年度の利用者1,260人は延べ人数であり、実 이용자52人は少ない。利用者増には運行改善が必要では。町長 町内移動の利便性向上には、何が必要か検討したい。



おがわふみこ
小川 文子議員
(日本共産党矢巾町議団)

動画は
こちら



町内養豚業者の事業状況は

今後も事業者と情報共有したい

質問 町内徳田地区の養豚業者が地域住民に今後の事業についての説明をした。

貴重な養豚業である一方、悪臭の問題が長年の懸案事項であった。現在の状況や今後

町長 事業者の状況把握に努め、方向性を伺っているか。

めていた。必要に応じた支援の備えはしているが、特定の民間企業の状況・今後の方針性を町が回答する立場はない。

質問 悪臭問題の見通しを町長が主導して、町民・岩手医科大学などに説明が必要では。

町長 8月の事業者による説明では事業規模を徐々に縮小している旨の説明があつたが、経済への影響の把握は難しい。

町長 令和7年4月末で廃止された事業所はあるが、入居者は別の有料老人ホームへ転居。在宅での利用者は他の事業所へ切り換えとなり、影響はないものと捉えている。

質問 包括支援センターとの

介護事業を 進めるために

國や県に 処遇改善を要望

連携状況は。

引き下げの影響はあるものの

町長 地域包括支援センター
主催の合同連絡会を年6回開

通して実践力の向上を図ると

ともに連携強化に取り組む。
個別ケースについては地域

ケア会議などを通じて関係機関、支援者が連携して支援を行っている。

町長 質問 町内事業所運営状況は。昨年8月に状況を伺つた際、約7割の事業者が報酬

町長 正確に把握することは困難であるが、ある程度充足している状況と捉えている。
介護従事者の待遇改善などは国や県に要望している。

質問 町内介護事業所は充足しているか。

また、介護事業所の維持確保に向けた町の取り組みは



人気のラボット*「りんごさん」と、なごやかに
(やはばえんじよいセンター内で活躍中、こども園などに出張)

人財育成で大切なことは

誇りと使命感を醸成すること



駅スペースを交流の場などに有効活用を(現状月1回のイベント開催)

新たな手法を検討 行政の評価は

質問 学生が多いことも強みである。駅の活動スペースを交流の場として、仲間づくりと地域活性の拠点としては。選択肢のひとつとして考えている。

質問 町民は矢巾町のどのうなところに誇りを感じていると思うのか。

町長 医療、福祉施設が充実していることが挙げられる。

質問 町民が矢巾町に誇りをもつと、自然と町のために行

町長 自ら考えて主体的に働く職員の育成のため、上司は町職員の使命を理解し、リーチをしてくれ。そのためには、まず町職員が町や仕事に自信と誇り、そして使命感を持つて働き、町民と接することで、その熱意が町民に伝わっていくものと考えるが、そのように育成する考えは。

質問 方針だけでなく指標を定め、数値で評価できるようにする必要があるのでは。

町長 これから具体的な指標を設けて、客観的に評価できるようにしたい。

質問 それでは課題と改善の検証が不十分である。今年度をしつかり評価し、次年度へ引き継ぐことでより良い形で毎年事業内容がブラッシュアップされるのではないか。

町長 予算要求時に使用している事業概要書を用いて実施シートを用いた評価は。

質問 ダーシップを発揮しながら、部下の創意工夫や自主性を尊重し、誇りと使命感を醸成するように取り組んでいる。

町長 令和5年、令和6年はできない。

質問 行政評価スキルの向上はどうに行われているか。



たかはし けいた
高橋 敬太 議員
(不來方)

動画は
こちら



質問 町のアプリである「やはナビ！」について費用対効果を具体的な数値で検証する必要があるのではないか。

町長 各機能の詳細なデータ集計はできないが、有効性を根拠に基づいて評価したい。